

保土谷化学工業株式会社 様

SAP本番環境を3.5カ月でクラウドへ移行
運用の効率化・コストダウンを実現し、事業拡大を支える基盤を強化

「評価の総合点で『Private Hosted LCP』を採用しました。決め手になったのは信頼性とコスト、そして安心感でした。富士通はすでにIaaSによる稼働実績をもっていることに加え、高信頼なクラウド基盤が大きな評価につながりました」

遠山 正史 氏
保土谷化学工業株式会社 IT統括部長

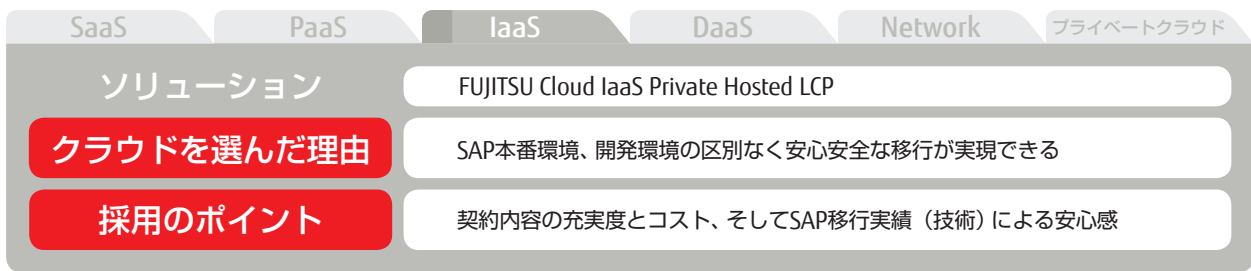


課題

- 5年ごとに発生するハードウェアの更新費用の平準化
- 情報分析系ツールの性能改善
- IT統括部門の運用保守業務を効率化

効果

- 基幹システムも搭載可能なクラウド（IaaS）の採用でハードウェアの更新が不要となりコスト削減
- バッチ処理時間が5分の1以下になり、ユーザーも体感する高レスポンスを実現
- クラウドを活用することで運用保守業務から解放され、IT統括部門は戦略的な社内業務に専念



概要

SAPで稼働させていた基幹業務システムの更新を控えていた保土谷化学工業株式会社様。同社では、クラウドへの移行を検討し、運用の効率化と大幅なコストダウンが図れるという点を評価して「FUJITSU Cloud IaaS Private Hosted LCP（以下、Private Hosted LCP）」を採用した。富士通の豊富なSAP導入実績に基づき、仮想環境への確実な移行を3.5カ月という短期間で実現し、安定稼働を継続。会社を支える基盤の強化、将来の成長に向けた事業拡大／新製品創出の推進、グローバル運営体制の一層の強化に

向けた足がかりとした。

更新の壁を乗り越えたい

世界トップシェアを誇るCCA（電荷制御剤）をはじめ、染料から農薬、医薬品中間体、ウレタン樹脂材料、情報記録材料まで、時代のニーズに応える様々な製品を生み出している保土谷化学工業株式会社様。同社のIT戦略を担うIT統括部で課題となっていたのが、SAPで稼働させていた基幹業務システムのハードウェア更新だった。

「メーカーのIT部門としては常にシステムのハードウェア更新にさらされています。約5年

ごとに、どうしても置き換えが必要になり、ユーザーの立場からすればそのたびに大きなコストや作業負荷がかかります。こうしたものを平準化し、更新の壁を何とか乗り越える方法はないかと考えていました」と、同社IT統括部長の遠山正史氏は語る。

更新の最終リミットである2013年9月に向けて、2012年の春からIT統括部内で検討を開始。選定にあたっては、サービス内容やサポートなどの定性面およびコストや稼働率などの定量面の両面においてIT統括部のメンバー全員で意見を出し、評価を重ねていった。



徳永 諭氏
IT 統括部
運用・保守グループ
グループリーダー



坪野 賢哉氏
経営企画部 係長

会社概要 保土谷化学工業株式会社 様
所在地 〒104-0028 東京都中央区八重洲
 二丁目4-1 常和八重洲ビル
代表者 | 代表取締役社長 喜多野 利和
設立 | 1916 (大正5) 年
従業員数 | 760名 (連結)、377名 (個別)
 (2013年3月31日現在)
事業内容 | 機能性色素、機能性樹脂、基礎化
 学品、アグロサイエンスの各分野
 における研究開発・生産・販売
URL | <http://www.hodogaya.co.jp/>

「評価の総合点で富士通の『Private Hosted LCP』を採用しました。決め手になったのは信頼性とコスト、そして安心感でした。富士通はすでにIaaSによる稼働実績をもっていることに加え、高信頼なクラウド基盤が大きな評価につながりました」(遠山氏)。

トラブルなく移行を完了

2013年6月からプロジェクトがキックオフ。プロジェクトでは、今回対象となるリプレース機器は、VMwareベースで構築された共用仮想インフラを論理的に分離し、専用線でのセキュアで機密性の高いクラウド環境を利用できる「Private Hosted LCP」に移行。加えて、今回対象となっていない機器類は物理移転し、クラ

ウド環境のある富士通データセンターにハウジングすることにした。

「保守延長が許されず、デッドラインのあるプロジェクトのため、かなり神経を使いました。富士通のSEの方がSAPの移行ノウハウの面で豊富な経験をもたれており、スケジュール管理を含め責任をもって進めてくれましたので、トラブルなくスムーズに移行を完了することができました」と、同社IT統括部運用・保守グループのグループリーダー徳永諭氏は、プロジェクトの成果をそう語る。

ICTを活用し基盤事業を強化

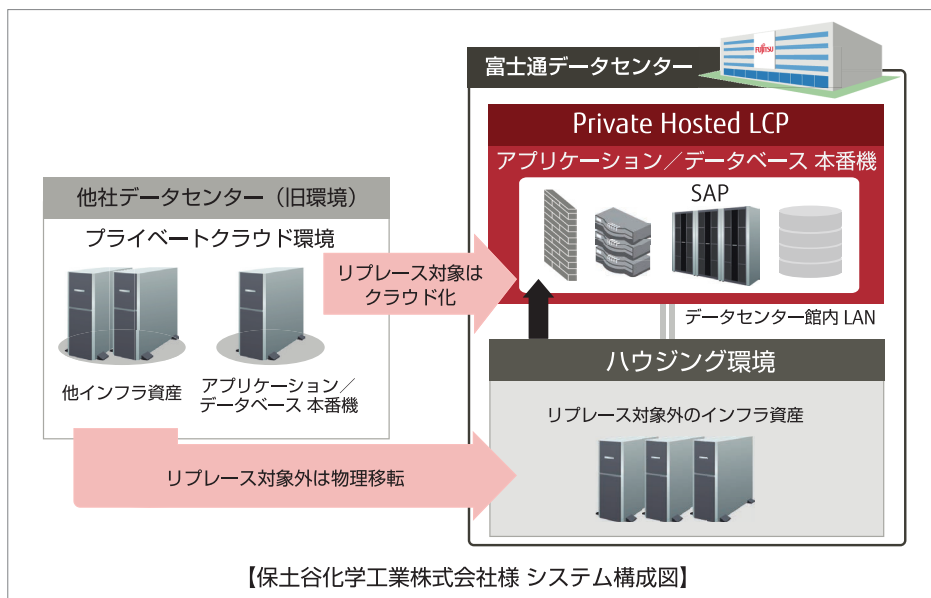
従来の業務基幹システムでは、システムの更新費用だけでなく、保守費用、データセンター

利用料、運用監視サービスの費用など、様々な運用保守にかかる費用が必要だった。今回「Private Hosted LCP」を活用することで、これらのコストが大幅に削減された。また、情報分析系ツール (SAP BW) の性能改善を図りたいという課題があったが、それもバッチ処理時間が5分の1以下になり、ユーザーから高い評価を受けた。

「一括して富士通データセンターのオペレーターさんに運用していただけるようになり、私たちは運用業務から解放され、より重要な戦略的な社内業務に専念できるようになりました。クラウド利用は単なるコストだけでは測れない大きなメリットをもたらしていることを実感しています」(徳永氏)。

同社経営企画部係長の坪野賢哉氏は自社の経営戦略について次のように語る。「当社は2016年に迎える創業100周年に向けて『グローバル・ニッチ分野で、オンリーワン・ナンバーワン素材を提供し続ける企業』へと進化すべく、中期経営計画を策定し、各種施策を積極的に推進しています。そのなかでも会社を支える基盤事業の強化は重要なポイントで、コストダウン・生産能力増強・新規用途開発などにより、収益力の強化を目指しています」。

富士通ではこれからも、基幹システムの運用サポートをはじめ様々なサービスで、こうした保土谷化学工業株式会社様のグローバルな経営戦略に貢献し続けていく。



●記載されている内容については、改善などのため予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。(取材日：2013年12月)

製品・サービスについてのお問い合わせは

富士通コンタクトライン (総合窓口) **0120-933-200**
 受付時間 9:00~17:30 (土・日・祝日・年末年始を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター